

## (仮称) 厚田小中学校の「学校の教育目標(案)」

### 未来に向かって

ふるさとに誇りをもち  
豊かな心とたくましい体で  
自ら進んで学び高め合う

### 厚田の子

### (1) 学校のテーマ?スローガン? 「未来に向かって 厚田の子」

厚田区の4校は、それぞれ開校以来の歴史と伝統を継承しながら、統合し(現在仮称)厚田小中学校として開校します(した)。折しも平成32年度から小学校で、同33年度から中学校で完全実施される新学習指導要領の基本方針においても「将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子どもたち一人一人に確実に育む学校教育の実現」が求められています。そんな背景からこんな学校をめざしたいというテーマを「未来に向かって厚田の子」とし、まずは2030年という開校10年後の子どもたちの姿をイメージしながら教職員一丸となって厚田の子どもたちを育ていきたいと考えます。

### (2) 学校の教育目標設定の理由

厚田小学校、望来小学校、聚富小中学校、厚田中学校の小学校2校、小中併置校1校、中学校1校計4校は、厚田区内の学校を統合しながらそれぞれ開校からの歴史の長短はあるものの、制定した学校の教育目標の実現のために、地域と連携して「厚田ならではの」教育活動を進めてきました。

およそ20年ほど前に時代の要請から、小中学校間の行事などの交流から一歩進んだ小中の連携を強化した取組が行われるようになり、「小学校低学年の教員は、中学校での学習や子どもたちが中学校を卒業するときの姿をイメージしながら日々の教育活動を行っているのか。」「中学校の教員は、小学校のどの学年で何を学んで、何につまずいて今の子どもたちの姿があるのかを知った上で指導に当たっているのか。」といった課題に対応することの重要性が増してきました。

このような状況の中、「小学校と中学校が共に義務教育の一環を形成する学校として学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して目的を達成する」という観点から、双方の教職員が義務教育9年間の全体像を把握し、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組む機運が高まり、各地域の実情に応じた小中一貫教育の実践が増加してきました。

「厚田ならではの」教育の重要な特色として「郷土愛」が挙げられます。また、開校初年度となる今年度は小学校、次年度は中学校において完全実施される学習指導要領では、これからの予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となるために、「生きる力」を育成する学校教育や教育課程への期待が強いと言えます。さらに「主体的・対話的で深い学び」を通して未来を切り拓いていくために必要な資質・能力を身に付け、将来にわたって能動的に学び続けることができるようにするなど、10年後の子どもたちの姿をイメージしながら教育活動を推進していかなければなりません。

本校は義務教育学校の特性を生かし、①多様な異学年交流の活発化 ②より多くの多様な教員が児童生徒に関わる体制の確保 ③地域の活性化による地域の教育力の強化など、多様化・複雑化している学校課題に対応していく学校システムの構築が求められています。

以上のことから、具体的な教育目標を「ふるさとに誇りをもち(郷土愛) 豊かな心とたくましい体で(情・体) 自ら進んで学び高め合う(意・知)」としました。

具体的な目標についての説明は

**ふるさとに誇りをもち**=小中一貫教育を通して、厚田の豊かな自然や文化、歴史、地域を支える人々などについて、意図的・計画的に学んでいくことで、「ふるさと・厚田」のよさを改めて認識させます。このことを通して、児童生徒が厚田を誇りに思い、周りの人々に感謝し、「ふるさと・厚田」を愛する児童生徒を育成します。

**豊かな心とたくましい体で**=豊かな自然と伝統ある歴史をもつ「ふるさと・厚田」で、生活し、小規模校の特性を生かしながら、一人一人が様々な体験を直接する機会を得ることにより、相手の立場になって考えたり相手の身になって行動したりすることを通して、体力のみならず、予測不能な未来を力強く生き抜いていく「たくましさ」も身に付けた児童生徒を育成します。

**自ら進んで学び高め合う**=9年間を見通した教育課程のもと系統的・継続的に学習指導を行うことにより、学習意欲の向上と学習習慣の定着を図り、確かな学力を向上させることはもちろんのこと、小規模校の児童生徒の特長である受け身の学習から脱却し、主体的かつ協同的に学習に向かう態度を育成します。

※めざす学校像については前回提案のように

<義務教育9年間を通して継続的で一貫性のある教育の場>という冠をつけて

- (1) の視点=子どもたちの学びや活動から
- (2) の視点=郷土愛、ふるさとへの思いを育む
- (3) の視点=開かれた学校 としての。

<義務教育9年間を通して継続的で一貫性のある教育の場>

- (1)いきいきと活動し、子どもの瞳輝く学校（現行の聚富小中のめざす学校像より）
- (2)郷土を大切に、ふるさとを誇れる学校（伊東校長先生のめざす学校像3案より）
- (3)地域・保護者に信頼される学校（全員の案に記載あり）

<目指す学校像設定の理由>

厚田区の学校や地域が持っている「強み」は「学校と保護者・地域の強い絆」「米作り、漁業体験など第一次産業が学べる」、「ふるさと学習」「地域文化の伝承（厚田音頭、獅子舞など）」「小中一貫なので、9年間を見通した教育ができる」。反対に「弱み」は、「学区区が広い」「学校までの遠距離」「冬の通学が大変」「少年団・部活試合の送迎が大変」「先生方の人数が少ないので、忙しそう」との意見がある。子どもたちについては「素直」「仲がいい」「生き生きしている」「挨拶がよくできている」「誠実」「先輩後輩のつながりが強い」「学年を超えた学び合い」「中学生が小学生を指導、よい手本」などの強みと、「（少人数のため）人間関係が固定」「集団での経験が少ない」「切磋琢磨の機会が少ない」「多様なグループ分けが難しい」「部活動の選択肢がない」「競争心がない」などの弱みが指摘されている。（設立準備委員会における「よりよい学校づくり」の提案より）

本校が義務教育学校として開校する最大の意義は、義務教育9年間を見通し、系統性・連続性を確保した教育課程を編成し、それを実施することにほかならない。上記の「強み」を生かし、「弱み」とされることを改善していくことで、よりよい学校づくりをすすめていかなければならない。そして制度上の利点も生かしながら、子どもたちが故郷を愛し、生き生きと学び、地域の教育力を最大限に活用し、これぞ「おらが厚田の学校」と地域・保護者に思ってもらえるような学校づくりを目指したいと考えます。

※「めざす児童生徒像」については、教育目標が複数項目の場合、教育目標と学年制ブロックのマトリックスで表記してはどうか。という提案があったので4・3・2制が確定してから決定することとする。

	前期ブロック（1～4年）	中期ブロック（5～7年）	後期ブロック（8・9年）
ふるさとに誇りを持ち（郷土愛）			
豊かな心とたくましい心で（情・体）			
自ら進んで学び高め合う（意・知）			

今後策定（この方法がいいのかも含めて検討材料とする）

※目指す教師像について

◎<<義務教育学校9年間の育ちに責任をもち>>

- ・児童生徒をよく理解し、（子どもたちに）最良の学習の場を与える教師
- ・研修と実践を基盤に、協働体制で働く教師
- ・地域・保護者の信頼と期待に応える教師

<目指す教師像設定の理由>

統合前の4校の「目指す教師像」は、大きく5つの視点でくることが出来ます。1つめは「意欲的であること」、2つめは「積極的に児童生徒理解を進めること」、3つめは「協働体制で業務を推進すること」、4つめは「研修意欲が高く、常に向上心を持つこと」、5つめは「保護者・地域と連携しながら学校運営をすすめること」。上記で設定した学校の教育目標の実現のためには、義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえて具体的な取組内容の質を高める必要があります。

義務教育学校での9年間学びを通して「めざす児童生徒像」にあるような児童生徒を育成していかなければなりません。本校の教師はそのことに大きな責任をもち、より多くの多様な教員が児童生徒に関わることができるメリットを最大限生かしながら、教育活動の充実を図っていきます。そのために、新たな理想の教師像を目指すのではなく、4校が理想とした教師像を統合する形で引き継ぎ、「積極的な児童理解のもと、子どもたちの学びを保障すること」「個人の研修や実践も大切にしながら、チーム学校として機能すること」「新たな学校に対する地域保護者の期待を感じながら、その期待に応えようと前向きであること」を目指す教師像として設定しました。